會務報告

第24卷第4號 昭和13年4月

役員會

第13回常議員會 (昭13. 2. 14)

出席者: 大河戸會長, 辰馬, 新井兩副會長, 宮本, 金子, 關, 海老, 小宅, 河口各常議員, 名井前會長, 小野寺庶務主任, 朝倉會計主任

報告

1. 役員選擧の結果通常總會記事參照の通り當選せられたり。

2. 北海道支部商議員に次の諸君當選せられたり。

井口鹿象君　菅良二君　菊地清君
古藤猛哉君　齋藤靜脩君　神保金衞君
相山常治君　田中茂美君　奈良部龜松君
渡邊榮五郎君

第1回常議員會 (昭13. 2. 21)

出席者: 辰馬會長, 新井, 平山兩副會長, 阿曾沼, 伊藤, 海老, 岡田, 金子, 榧木, 川口, 菊池, 佐野, 高橋(嘉), 高橋(三), 中村, 松田, 森田, 山崎各常議員, 眞田前會長, 小野寺庶務主任, 朝倉會計主任, 糸川編輯主任

辰馬會長より就任の挨拶あり議事に移る。

報告

1. 關西支部第2回役員會議事を報告せり。

議事

1. 昭和13年度理事6名の選擧は會長指命とし次の諸君選任せられたり。

金子源一郎君(重任), 高橋嘉一郎君(新任),
山崎匡輔君(新任), 岡田信次君(新任),
榧木寛之君(重任), 川口裕康君(新任)

2. 昭和13年度部長に次の諸君選任せられたり。

總務部長 金子源一郎君　經理部長 高橋嘉一郎君
編輯部長 山崎匡輔君　調査部長 岡田信次君
法制部長 榧木寛之君　東亞部長 川口裕康君

3. 會誌編輯委員會委員長及委員の選定は會長及編輯部長に一任することゝせり。

4. 日本工学會次期本會選出評議員に眞田秀吉君を依囑することゝせり。

5. 常議員會附議事項中次の件を理事會に一任することゝせり。

(1) 諮問に応じ又は建議を爲す事項に關し継続反復すべき場合の處置
(2) 會員の入退會及転格承認
(3) 會誌その他刊行物の寄贈
(4) 臨時に開催する講演會その他の會合
(5) 委員會委員の選定

6. 講演及映畫の會を4月開催することゝし其の計畫に就ては理事會に一任せり。

7. 春季視察旅行を開催することゝし其の計畫に就ては理事會に一任せり。

8. 第2回年次学術講演會を本年7月北海道に於て開催する豫定にて北海道支部と打合せを爲すことゝせり。

9. 安藤博君外24名を會員に, 青柳寅藏君外76名を准員に, 相澤彰二君外73名を学生員に, 株式會社淺香本店外18名を特別員に入會を承認せり。

第1回理事會 (昭13. 3. 7)

出席者: 辰馬會長, 平山副會長, 金子, 高橋, 山崎, 岡田各理事, 小野寺庶務主任, 朝倉會計主任, 糸川編輯主任

報告

1. 昭和13年2月24日本會資産の總額及理事変更の登記を了せり。

2. 昭和13年度會誌編輯委員會委員長及委員に次の諸君を依囑せり。

委員長 山崎匡輔君
委員 伊藤信君　伊藤剛君
大岡禮三君　大川一郎君
太田尾廣治君　風間武雄君
佐藤寛政君　當山道三君
野口誠君　廣瀬孝六郎君
安宅勝君

議事

1. 地下構造物に於ける鋼材節約調査委員會委員長に新井榮吉君を依囑することゝせり。

2. 世界動力會議大堰堤國際委員會日本國内委員會本會選出幹事に高橋嘉一郎君を依囑することゝせり。

3. 萬年會寄附工業奨勵資金受領候補者は東京帝國大学, 鉄道省官房研究所, 内務省土木試驗所在勤の會員中より推薦することゝせり。(大学山崎理事, 鉄道

岡田理事，內務金子理事に一任）

4. 關西支部より申出に依る特別員の會費は学會規則に基き月割計算にて納入せしむることゝし，その旨同支部へ通知することゝせり。

5. 4月15日（金曜日）講演及映畫の會を開催することゝし講演者及映畫の種類を大体次の通り決定夫々交渉することゝせり。

映　畫　大同電力三浦貯水池天然色映畫，觀光局映畫，ニュース映畫

講演者　（鉄道省）兒島重次郎君又は山下清吉君

〃　（東京市）岩崎富久君

6. 春季視察旅行は來る5月東北支部と合同にて飯坂温泉1泊，東北振興電力會社蓬莱發電所工事その他を視察することゝし調査打合せを爲すことゝせり。

7. 各種委員會事業の促進並に時局對策に關し來る3月18日丸の內會館に前會長並に委員長及幹事諸君を招待し會長より懇談することゝせり。

8. 本會々員たる次の支那視察員に對し土木学會としての調査方を嘱託することゝせり。

礒谷道一君　菊池　明君　近藤泰夫君

9. 山梨高等工業学校図書館へ會誌を寄贈することゝせり。

總務部記事

晩　餐　會

昭和13年2月28日午後5時より丸ノ內會館に於て新舊役員及東京府及隣縣在住地方委員（內務，鉄道關係を除く）を招待し晩餐會を開く出席者次の如し。

出席者：辰馬會長，新井，平山兩副會長，金子，高橋（嘉），山崎，岡田各理事，青木，阿曾沼，淺間，菊池，中村，松田，村橋各常議員，中川，名井，眞田，青山，大河戸各前會長，關，小宅，浦各前常議員，鶴見東北支部長，池邊，大竹，丹羽，黑河內，錢高，關（毅），酒井，宮長，吉田各地方委員，糸川編輯主任

席上辰馬會長より退任役員諸君の御努力と地方委員諸君の御盡力に對し甚深なる謝意を表し併せて此後共絶大なる御援助あらんことを切望す，大河戸前會長より退任役員を代表して挨拶あり午後7時盛會裡に宴を閉ぢ。

続いて別室に於て金子理事より時局對策就中支那土木事業調査問題に關し前理事會に上程された議案の説明及自己の所信を述べ種々意見の交換あり不取敢來る3月3日午後4時30分より本會々議室に於て次の諸君の參集を願ひ現地視察狀況に就て談話會を開催することゝし午後8時30分散會した。

高野與作君　大野　巖君　河西定雄君
村橋恒造君　三浦七郎君　田淵壽郎君

對支談話會（昭13. 3. 3）

出席者：三浦七郎，河西定雄，村橋恒造，永井丁吉，坂本助太郎，辰馬會長，新井，平山兩副會長，金子，高橋，山崎，の各理事，阿曾沼，淺間，松田，森田，高池，の各常議員，中川，眞田，青山，大河戸の各前會長，小野寺庶務主任，糸川編輯主任

會長の挨拶について金子總務部長の説明あり，對支問題の氣運が各方面に着々進みつゝある現下の狀勢に當つて，本會に於ても獨自の立場に於てこれと其の軌を一つにする意図を有するに就いては，その方法，手段等を考慮したき旨を述ぶ。

続いて笠井氏，坂本氏，村橋氏，永井氏より各自の忌憚なき意見の開陳あり，愼重裡にこれが對策の實行方法に就いて協議す。

（談話會の內容については公表を避くべき性質のもの多々あるため玆に發表を省略する）。

編輯部記事

第3回會誌編輯委員會（昭13. 3. 2）

出席者：山崎委員長，伊藤（剛），大岡，大川，太田尾，風間，佐藤，野口，廣瀨，安宅各委員糸川，豐田兩編輯嘱託

協議事項

(1) 委員長より會誌編輯委員會の成立に關する挨拶に次いで下記の如く各委員の擔當部門を決定せり。

委員長　山崎匡輔

委　員　伊藤　信（河川，砂防）
伊藤　剛（抄錄）
大岡禮三（都市計畫，施工）
大川一郎（鉄道～保線，改良）
太田尾廣治（港灣）
風間武雄（鉄道～建設，測量）
佐藤寛政（道路，コンクリート）
當山道三（材料，土質）
野口　誠（發電，堰堤）

廣瀬孝六郎（水理，上下水）
安宅　勝（応力，橋梁，構造物）

(2) 第 24 卷第 3 號所載の工事寫眞，討議，彙報，抄錄，時報に對する謝禮を決定せり。

(3) 原稿の審査並に登載を次の如く決定せり。

(A) 論說報告

(1) 耐震構造の新方法（會，工博，鷹部屋福平）は 5 號へ登載のこと。

(2) 愛知縣に於ける國府縣道の經濟的考察（著者書換中未提出）（會，工，笠原昌郊）は一時保留とす。尙著者へは照會すべきこと。

(3) 有峰堰堤の施工法に就て（會，工博，石井顯一郎）は 5 號へ。

(4) 乾燥砂層に於ける垂直土圧（會，工博，小野諒兄，會，工，眞井耕象）は 5 號以後へ登載のこと。

(5) ワレン型骨組抗圧柱の彈性破損（會，工，安宅 勝）を 4 號へ追加登載すること。

(B) 彙　報

(1) コンクリート重力堰堤の經濟的計算法に就て（准，工，高畑政信）は著者の書換を俟つて 5 號へ。

(2) 支那歷代に於ける河官並に河渠管理に就て（會，工，淺長　好）も前者と同樣に書換へを俟つて 5 號以後へ。

(3) 伊豫鉄道電氣株式會社第 3 面河發電所工事概要（准，古田一三六）は 5 號へ。

(4) 支那に於ける防空理論の探求（會，工，山下清吉）は委員審査の結果を著者に照會し時報又は會員の頁欄に變更すべきこと。

(C) 抄錄 (1)～(6) を 4 號へ追加。未決定原稿中の (7)～(16) を 5 號へ。

(D) 會員の頁

(1) 及 (2) を 4 號へ登載のこと。

(4) 抄錄に關しては次の如く決定す。

(1) 蒐集に就ては從來通の抄錄打合會を開催すること尙擔當者は可成く經驗に富みたる者を以つて之に充當すること。

(2) 審査は專任委員によりて可及的に遺憾なきを期すること。

(3) 關西支部委囑の件は本部編輯の都合上抄錄打合會の議題外のものに就き依頼すること。

調 査 部 記 事

第 22 回鋼橋示方書委員會（昭 13. 2. 3）

出席者：田中委員長，稻葉，瀧尾，成瀬各委員，友永，齋藤兩幹事

協議事項

(1) 改正原案印刷完了　第 3 章終りまで要點につき委員長よりの說明あり。

(2) 改正印刷原案を各委員に送附，研究を依頼し，次回より各條文につき審議する事とす。

(3) 三瀨，高橋（逸），鷹部屋各教授を特別委員に依囑すること。

そ の 他 記 事

○昭和 13 年 3 月 1 日土木学會誌第 24 卷第 3 號を發行成規の手続を了し全會員に配布せり。

入 會 及 轉 格 會 員

特 別 員（入　會）

株式會社淺香本店	淺香久三君		3 級
大井川電力株式會社			〃
株式會社大阪鉄工所	六角三郎君		〃
大阪窯業セメント株式會社	谷口德政君	伊藤暖策君	1 級
	橋本太郎君	永井清七君	
	松島清重君	内田　收君	
	岡野重雄君	西　忠雄君	
	山田　馨君	高野新次郎君	
株式會社大林組	大林義雄君	白杉龜造君	1 級

	鈴木甫君		
株式會社川崎造船所	鑄谷正輔君	松村守一君	2級
鬼怒川水力電氣株式會社			3級
京阪電氣鉄道株式會社	松島寛三郎君	柳田癸巳夫君	〃
	瀬能三郎君		
港灣工業株式會社	關毅君	小城章博君	〃
	富家欣吾君		
株式會社竹中工務店	竹中藤右衛門君	山脇友三郎君	〃
	竹中錬一君		
東京灣埋立株式會社	淺野義夫君	淺野總一郎君	〃
	濱浦春美君		
東北振興電力株式會社	八田嘉明君		〃
株式會社中山工業所	中山高亮君		〃
南海鉄道株式會社	早崎金七君	横山勇君	〃
	星田八郎太君		
阪神築港株式會社	磯村正之君	山本圓藏君	2級
	三宮守衛君	坂井國漢君	
	潮文一君	田村義正君	
阪神電氣鉄道株式會社	泉谷平次郎君	清水又一君	3級
	木村又左衛門君		
合資會社宮地鉄工所	宮地榮治郎君		〃
小田原急行鉄道株式會社	高野猶次君	牧野錠次郎君	〃
帝都電鉄株式會社	一色定雪君	高田治三郎君	〃

特別員（資格変更）

株式會社佐伯組	佐伯與之吉君	佐伯豐君	2級

會員（入會）

安藤淳君　北海道廳旭川土木事務所
青山武雄君　札幌鉄道局工務部保線課
井口定一君　札幌市水道部工務課
飯島一郎君　仙鉄黒澤尻保線區
池田茂政君　北海道廳帶廣土木事務所
砂野良夫君　株式會社清水組
石井種實君　長津江水電株式會社
板垣隆義君　北海道廳釧路土木事務所
大友勇君　仙鉄一戸保線區
栗林始君　札幌市水道部
黒崎貞治君　北海道廳土木部總務課
黒澤文雄君　北海道廳帶廣治水事務所
西條宇助君　山形縣廳土木課
櫻井盛男君　仙臺工業學校
杉山善吉君　北海道廳帶廣治水事務所
鈴木安治郎君　宮城縣廳土木部河港課
田中彦敏君　北海道廳網走土木事務所
田原秀男君　山形縣廳土木課
高田實君　北海道廳帶廣治水事務所
高橋端君　〃　網走土木事務所
辻岡教師君　〃　釧路土木事務所
永井雄毅君　〃　土木部道路課
仁木信恭君　〃　〃　土地改良課
日比佐太郎君　大日本電力株式會社
兵藤末吉君　北海道廳小樽築港事務所

准員（入會）

青柳實藏君　石川縣飯田土木出張所
網藤健三君　滿鉄々道研究所大連分所
伊藤登司壽君　仙鉄一戸保線區
石母田胖君　北海道廳帶廣土木事務所
浦山武夫君　黄海道廳土木課
遠藤加壽君　內務省仙臺土木出張所
小畠正君　北海道廳旭川土木事務所
大沼忠雄君　札幌市水道部
岡田正夫君　南洋廳ポナペ支廳
桂田榮太郎君　北海道廳土木部道路課
桂田喜三郎君　〃　網走土木事務所
鎌田哲君　〃　土木部道路課
神山博君　北海道帝大工学部
川野亘君　北海道廳札幌土木事務所
河津傳治君　〃
菅野秀夫君　北海道廳函館土木事務所
岸本武男君　札幌鑛山監督局
北川昇君　北海道廳函館土木事務所

草刈　勇君　北海道廳札幌土木事務所
窪田活廣君　〃
小池貢雄君　〃　旭川土木事務所
佐々木隆吉君　內務省仙臺土木出張所
佐々木長康君　札幌市水道部
佐藤　誠君　北海道廳土木部道路課
坂野　清君　東京府第三道路出張所
志波周吉君　富山縣電氣局土木課
清水源長君　北海道廳土木部河川課
信田　景君　山形縣山形土木出張所
篠原四郎君　株式會社廣島組
數田齋雄君　大日本電力株式會社
居石駒一君　岩手縣廳土木課
菅田俊悅君　岩手縣釜石工營所
田村次雄君　北海道廳土木部河川課
田村亞武君　〃　函館土木事務所
高木精一君　札幌市土木局
高橋　香君　北海道廳土木部土地改良課
玉澤太郎君　〃　札幌土木事務所
仲鉢彌志治君　〃　小樽築港事務所
留目巳之松君　岩手縣廳土木課
富田高明君　岩手縣立工業學校
中尾博朋君　北海道廳函館土木事務所
仁平駿喜君　〃　帶廣土木事務所
西井外次郎君　滿洲國交通部圖們土木建設處
西村芳文君　臺灣電力株式會社
長谷川　守君　北海道廳帶廣治水事務所
橋本榮次郎君　岩手縣廳土木課
橋本　博君　滿鉄奉天鉄道總局建設局計畫課
橋本正利君　北海道廳旭川土木事務所
畠山信次郎君　岩手縣廳土木課
花輪昌幸君　秋田縣能代土木事務所
林　昌治君　北海道廳釧路土木事務所
平川吉治郎君　〃　函館土木事務所
廣瀨徵明君　〃　帶廣土木事務所
深澤二男君　〃　〃
藤井　正君　關東州廳土木部工務課
藤井正義君　北海道廳土木部土地改良課
前田直方君　〃　旭川土木事務所
松井一雄君　北海道帝大工學部
松下敏敏君　北海道廳札幌土木事務所
見瀨利州君　仙鉄盛岡保線事務所
南　時英君　北海道廳函館土木事務所
宮下武雄君　北海道廳土木部土地改良課
宮野　稔君　〃　釧路築港事務所
村岡久光君　九州電氣軌道株式會社
室谷正夫君　北海道廳土木部土地改良課
森田義育君　〃　札幌治水事務所
八巻正巳君　〃
柳瀨清一君　〃　札幌市土木課
山口善三郎君　新京特別市公署工務處土木科
山根　清君　北海道廳札幌土木事務所
米納津一郎君　〃　函館土木事務所
吉田　茂君　〃　旭川土木事務所
吉村信次君　札幌土木事務所
米本　實君　滿鉄々道研究所大連分所
渡邊英三君　滿洲國交通部圖們土木建設處
牛腸敬章君　日本鑛業株式會社
吉津丈夫君　淺野カーリット株式會社

学生員（入會）

相澤彰二君　東都帝大
赤井茂夫君　關西工業學校
猪岡良夫君　仙臺高工
石黑善雄君　日大工學部
石田孝夫君　神戸高工
石渡秀男君　日大工學部
一木保夫君　北海道帝大
內木場幸男君　神戸高工
大沼勝次郎君　山形工業學校
大山秋郎君　仙臺工業學校
加藤芳三郎君　〃
影山隆俊君　神戸高工
亀井久男君　岩手縣立工業學校
輕部健三君　山梨高工
川見駿之輔君　神戸高工
北野　寛君　關西工業學校
橋川　水君　仙臺高工
雲北敏雄君　關西工業學校
小針昌明君　神戸高工
佐藤良四治君　仙臺工業學校
齋藤良三郎君　〃
酒井俊夫君　神戸高工
鳴谷卓郎君　日大工學部
柴田健三君　神戸高工
島田　明君　日大工學部
島津純治君　〃
主濱　實君　岩手縣立工業學校
杉山一郎君　關西工業學校
鈴木　昇君　名古屋高工
角井五平次君　關西工業學校
住友重春君　〃
園部正男君　仙臺工業學校
高橋勇夫君　〃
竹原重春君　關西工業學校
武田德正君　〃
谷口象四郎君　神戸高工
爲近正博君　關西工業學校
千田孝雄君　仙臺工業學校
千葉芳夫君　〃
筒井淑郎君　關西工業學校
辻本義一君　〃
十亀修三君　德島高工
東海林英太郎君　山形工業學校
永井正孝君　日大工學部
永井昌廣君　神戸高工
野口　巖君　〃
畠山喜一郎君　仙臺工業學校
畠山安夫君　〃
原田一雄君　關西工業學校
藤城三郎君　神戸高工
本郷一郎君　仙臺工業學校
牧田正夫君　山梨高工
增森新一君　仙臺工業學校
三浦德壽君　關西工業學校
三原孝一君　〃
宮城　茂君　〃
宮本　勇君　北海道帝大
村田三郎君　日大工學部
守屋　浩君　仙臺工業學校
森　一之進君　日大工學部
矢口喜一君　山形工業學校
柳瀨俊夫君　日大工學部
藪本哲夫君　關西工業學校
山內　忠君　神戸高工
山川　明君　名古屋高工
山口　保君　關西工業學校

山本義治君　關西工業学校
横田一郎君　仙臺工業学校
横手　勇君　關西工業学校
渡邊浩行君　山形工業学校
大宮克巳君　京都帝大
丹羽氏信君　名古屋高工
西田　創君　名古屋高工
藤　正巳君　〃

土木学會々員數

（昭 13. 2. 21 現在）

會員	准員	学生員	特別員	賛助員	合計
3 002	3 161	775	42	21	7 001

會員　關屋忠正君　澤井準一君　大野德風君　の訃報に接す，本會は恭しく哀悼の意を表す。

学生員　小笠原正三君　の訃報に接す，本會は恭しく哀悼の意を表す。

[redacted]

正誤及訂正表

細菌濾過の阻止率

（土木学會誌第 24 卷第 2 號所載）

頁	行	誤	正
128	22	$N=I_0\lambda e^{-\lambda_0 z}$	$N=I_0\lambda_0 e^{-\lambda_0 z}$
129	8	然れば	然れば近似的には
131	11	滅菌水	滅菌生理的食鹽水
132	2	濾過滅菌後分注	別に濾過分注後滅菌
〃	5	恒溫水浴	45°C の恒溫水浴
〃	〃	に注ぎ，之に前記	に保持せる後，前記
〃	6	注いでよく混和し	注いだるペトリー氏皿に注加し，平等に混和し
133	脚註	HATTORI, H 1917, Micro····	HATTORI, H., 1917, Mikro····
137	表-6 (6)	S_3 mu/cm³	S mu/cm³
〃	表-7 (11)	$S'=I_0\lambda_0 y\left(1+\frac{\delta}{2}\right)$	$S_0'=I_0\lambda_0 y\left(1+\frac{\delta}{2}\right)$
〃	3	$S_0'=I_0\lambda_0 y$	$S_0'=I_0\lambda_0 y\left(1+\frac{\delta}{2}\right)$
139	図-11 説明	測定値即ち曲線は	測定値，曲線は
〃	図-11～14		點線末端の○は⊙に直す
140	表-10 (6～8)	10′	10°
〃	9	表-11, 12	表-11

會　告

土木学會第 2 回年次学術講演會の論文募集

昭和 13 年 7 月 16 日より下記の如く札幌市に於て第 2 回年次学術講演會が開催されますから，多數會員の論文御提出を希望致します。

日　時：第 1 日　昭和 13 年 7 月 16 日（土曜日）
　　午前　講演，　午後　講演
　　第 2 日　昭和 13 年 7 月 17 日（日曜日）
　　午前　講演，　午後　見学(札幌小樽附近)，懇親會
　　第 3 日　以後見学旅行
　　第 1 班　樺太（約 8 日間）
　　第 2 班　層雲峡—阿寒湖(約 4 日間)
　　第 3 班　苫小牧——登別——室蘭（約 2 日間）

講演會場　北海道帝國大学内

論文提出に關する注意

1. **論文提出の申出**　論文御提出の方は昭和 13 年 4 月 15 日迄に其の題目を北海道帝國大学土木教室内講演委員會宛に御申出のこと。
2. **論文要旨の提出**　論文要旨は昭和 13 年 4 月末日迄に御提出のこと。要旨は字數 800 字以内のこと（土木学會誌原稿用紙 3 枚以内とし，図面は縮小した時を考慮し本文中に含める）。
3. **論文全文の提出**　論文全文は昭和 13 年 6 月末日迄に御提出のこと。
4. **本文執筆**　本文執筆に關しては土木学會誌卷頭所載の**寄稿に關する注意**に據られたし。
5. **図面及寫眞**　図面はその儘縮寫し得る樣墨書にて明瞭に認め，寫眞もその儘複寫し得る樣明瞭なるべきこと。尙論文の要旨及全文中には図面及寫眞の挿入位置を明示すること。

講演に關する注意

6. **講演時間**　1 論文に付 20 分以内とす。但し超過する場合は論文要旨御提出の際御申出のこと。
7. **図面及表**　講演の際使用する図面，寫眞及表等にして豫め當方に於ての整理を希望せらるゝ方は掲出順序を明記して昭和 13 年 6 月末日迄に北海道帝國大学土木教室内講演委員會宛御送附ありたし。但し図面及表の大さは大体 80cm×105 cm 程度とす。
8. **其の他**　映寫設備等御必要の向は論文要旨御提出の際申出ありたし。
9. **本講演に關する事務**　すべて下記の處にて取扱ふ

北海道帝國大学土木教室内
土木学會第 2 回年次学術講演會
講演委員會

會　告

講演と映畫の夕開催

下記の通り講演と映畫の夕を催します，多數の御來會を希望致します。

日　時：　昭和13年4月15日（金曜日）午後5時

會　場：　帝國鉄道協會（麹町區丸ノ内3ノ4）

講　演：　中支の水道に就て　　東京市水道局給水課長　工学博士　岩　崎　富　久君

　　北支視察談　　鉄道技師　兒　島　重　次郎君

映　畫：　(A)　分岐器の製作　3巻　(16粍)　　鉄道省工務局保線課

　　(B)　觀光映畫　　觀光局

　　(C)　朝日世界ニュース

○映畫終了後午後7時より有志晩餐會を催します，御繰合せ御出席下さい。

　會費 2円 50錢（當日御持參のこと）

○御出席（講演並に晩餐會）の有無4月12日までに御申出で下さい。

土　木　学　會

會　　告

本會々員にて今次の事変に際して出征せられる方は出征中會費免除の手続きを採りますから至急富士會まで御通告下さい。本會は下記応召會員各位の武運長久を祈る。

応召會員氏名

（會員）

青木信夫君　安藤四良君　井上清太郎君　飯田房太郎君　石川與一君
浦田清志君　梅澤景秀君　尾錢峰夫君　大島省三郎君　奥田秋夫君
川島喜一郎君　國澤舜二君　倉田一郎君　小谷金馬君　後藤禎藏君
齋藤四郎君　坂野昇君　篠原武司君　清水雄吉君　瀬能三郎君
田中孝君　富樫凱一君　長友一二君　内藤範壽君　丹羽良彦君
西島尚義君　山岸誠君

（准員）

伊藤一郎君　井内萬治君　井上忠熊君　池戸貫三君　石尾良一君
石倉寛治君　板垣正男君　一之瀬喜駿君　今川周一君　乾市太郎君
宇佐美勇司君　宇田倉三君　上原要三郎君　内田襄君　遠藤作次君
小澤辰喜君　大竹源太郎君　大槻眞弘君　大森蕃二君　岡村貞男君
岡本恒嘉君　沖田二郎君　奥山幸雄君　加藤三重次君　鹿熊理三君
片岡市郎君　金澤義之介君　金子輝男君　金子軍作君　鎌田昌俊君
蒲原正吉君　神森五郎君　川勝常次郎君　川崎毅三郎君　河原忠次君
河村莊君　木村壽夫君　龜甲谷貞三君　岸忠男君　北村英太郎君
久保正君　熊耳爲男君　桑崎正範君　桑原於菟葉君　小久保參次君
小高與一郎君　小土井善雄君　小林嘉道君　小牧純尚君　後藤正司君
國分正胤君　近藤愛知君　佐伯重道君　佐伯秀雄君　佐藤源仁君
佐藤眞一君　里吉忠典君　澤田克己君　澤田實君　設樂藤雄君
四十萬小祐君　清水清三君　須藤正利君　鈴木駿一郎君　清野一水君
田淵榮治君　田村勳君　高井壽吉君　高島三郎君　高野義雄君
高橋咲保君　高橋正一君　玉井茂男君　筑瀬懋君　月邨德彌君
寺田功君　豐田實君　中津海俊雄君　中村正君　中村泰樹君
中村吉光君　永井良男君　永島德君　能登富五郎君　乘富士郎君
平井敦君　平野勳君　廣田賢治君　福島公三君　福島保君
福島峰夫君　藤田三士君　藤森謙一君　藤本輝文君　別所正夫君
堀修一君　堀内恭一君　本德壽雄君　增田正次君　松垣光君
松橋作藏君　松田昌治君　松本敏雄君　丸山和太郎君　三好雄次郎君
三輪銀吾君　村井義英君　安田恒夫君　山内新之助君　山岸正應君
山田安綱君　山中保君　山本三郎君　山本保君　山本芳男君
湯澤貞夫君　吉田時二君　吉田浩君　吉田登君　吉野正範君
和田豐君　渡邊有友君　渡邊嘉太郎君

（学生員）

浦部千尋君　小川九十九君　金出地史朗君　北條稔君　宮崎義成君
森芳太郎君　米澤佳年君　和田正一君

昭和 13 年 3 月 14 日

土木学會

會　　告

御住所不明會員に就て御願ひ

下記諸君は転居先の御通知がないため，會誌の配布を始め，その他の諸通信が出來ませんのは誠に遺憾であります。どうぞ知人の方は御手數恐れ入りますが，御本人に御注意下さるか本會にその住所又は勤務先を御知らせ願ひます。

會　員

荒川參太郎君　稲葉彌吉君　木村貫一郎君　小林源次君
藤增能君　山本保之助君

准　員

和泉高嚴君　池田乙次郎君　池田角太郎君　緒方政雄君
大森鶴吉君　佐藤與吉君　徐三善君　栗田忠治君
小林義雄君　野口金太君　關佳夫君　曾我進君
船橋貞一君　高橋理三郎君　本橋二郎君　吉見胤隆君
中野順太郎君　難波壽一君　劉作檀君　濱崎禎四郎君
平本源太郎君　水原馨文君　宮田肇君　横田清治君
石原三郎君　齋藤賢策君　多田安三郎君

時報，會員の頁記事及工事寫眞募集

◎時報欄は下記内容の記事を掲載する事になつてゐますから適當なる記事の御投稿を御願ひ致します。

A. 土木工事の計畫，設計，施工の進捗，竣功の狀況，金額等のニュース

B. 土木工学界の内外学協會，調査會，委員會等の設立，調査研究事項並に報告其の他會議，催物の簡單なる紹介

C. 官廳，會社，公共團体の組織事業に關するニュース

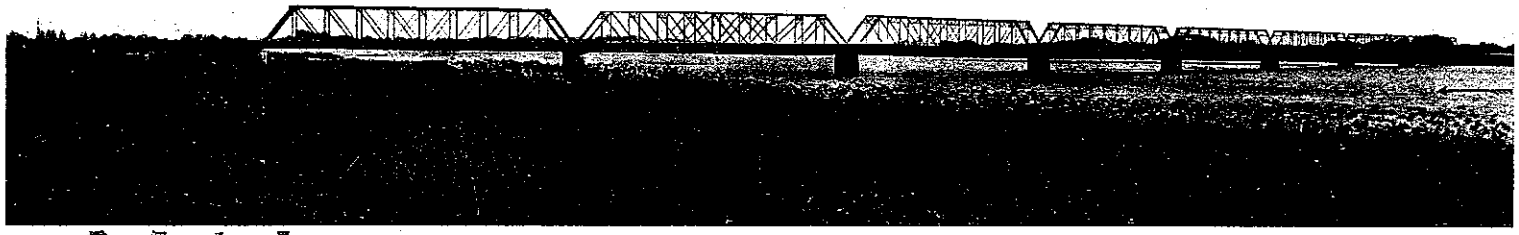
D. 法規，示方書，規定等の紹介

◎會員の頁は會員諸君の土木工学、土木工事，土木学會，土木技術社會に對する批判，時評，感想，希望等御發表の御利用に充てたものでありますから振つて御投稿を御願ひ致します。

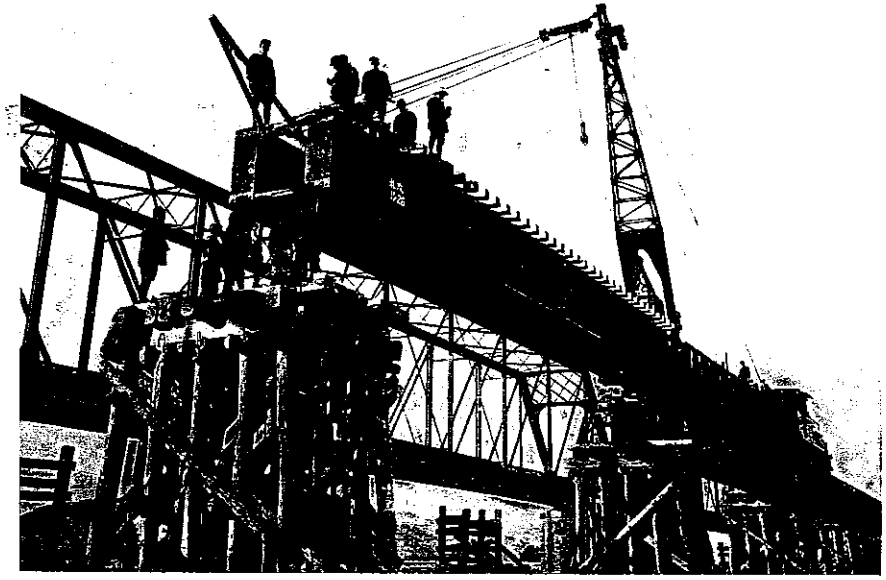
◎工事中又は竣功せる工事の寫眞を募集致します。寫眞にはその工事の簡單なる説明を御記入下さい

◎掲載の分には薄謝を呈上いたします

阿武隈川橋梁構桁架換工事（時報欄參照）



橋梁全景

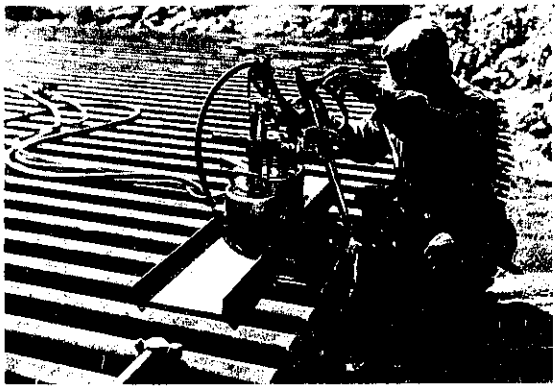


假橋脚に鉄桁架設作業（假線）

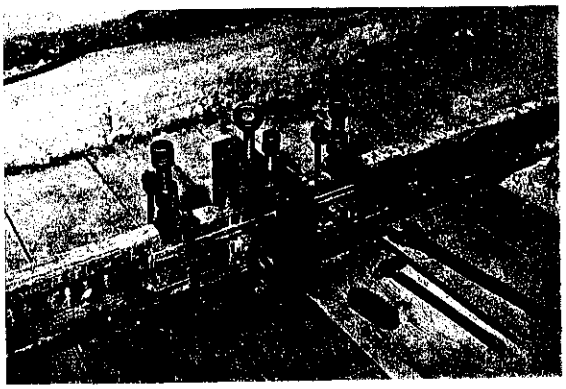
舊構桁の正面

宇佐美隧道内軌條熔接作業

50kg軌條頭部切断

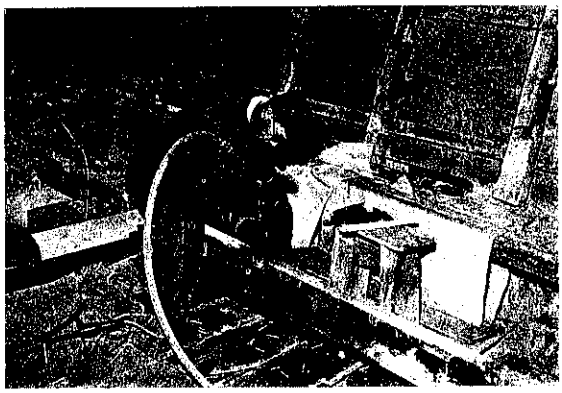


軌條熔接準備底部床版取付

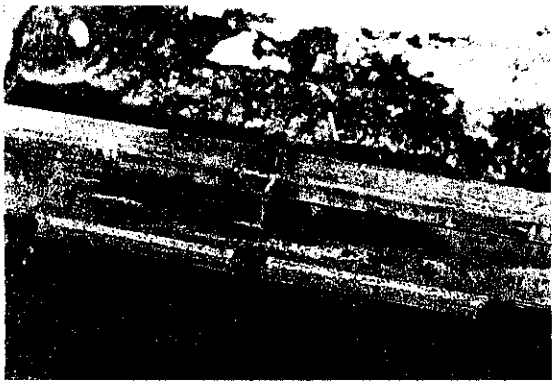


軌條電氣熔接作業

軌條電氣熔接個所ピーニング作業

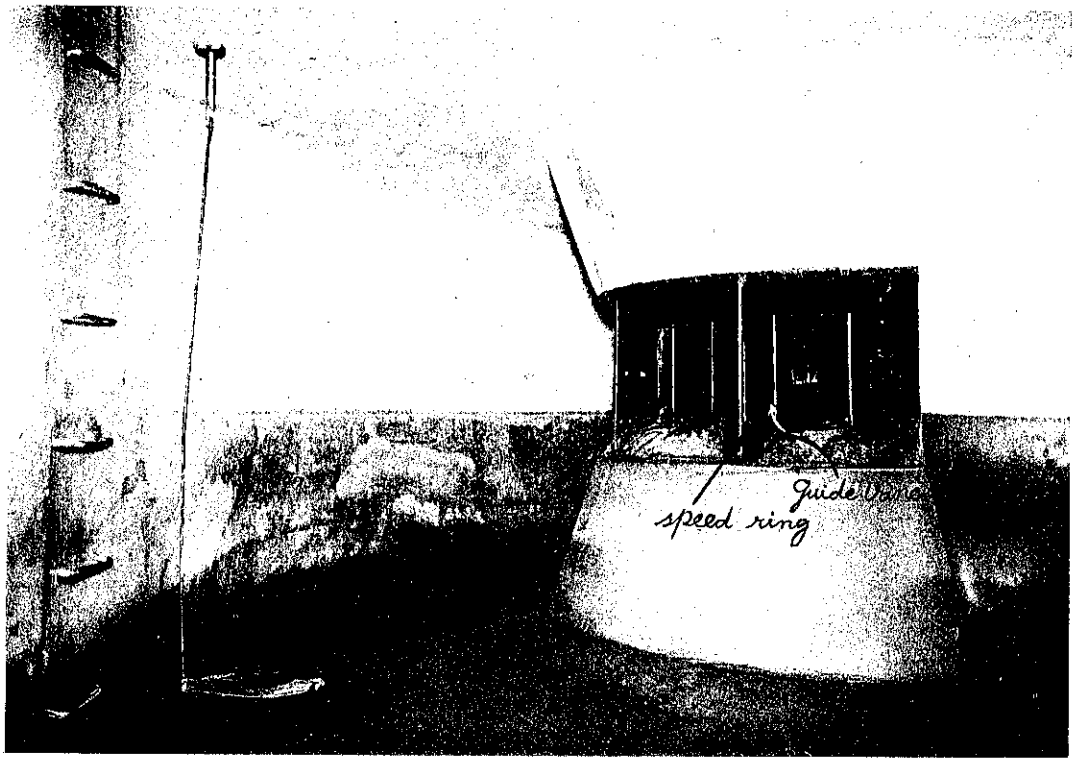


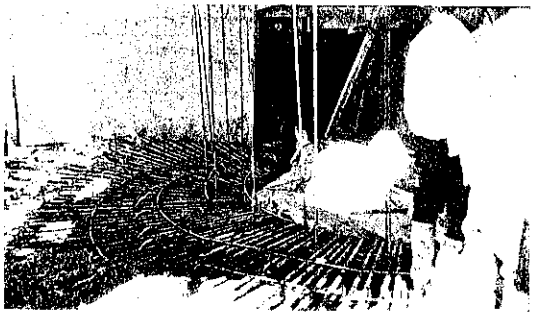
軌條電氣熔接完了個所

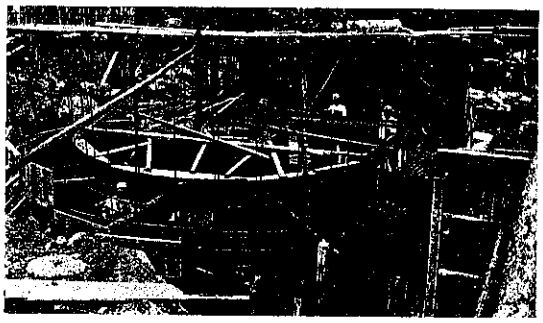


軌條頭部熔接個所の略仕上げ

竣工せる釜無川第3發電所水車スクロールケーシング







位　置：　山梨縣北巨摩郡武川村富士川水系釜無川
　　京濱電力株式會社釜無川第3發電所

構　造：　ケーシング全部鉄筋コンクリート造

水　頭：　14.5 m, 衝動水圧靜水頭の 40 %

設計者：　京濱電力株式會社技師
　　阿　部　仁　一　郎

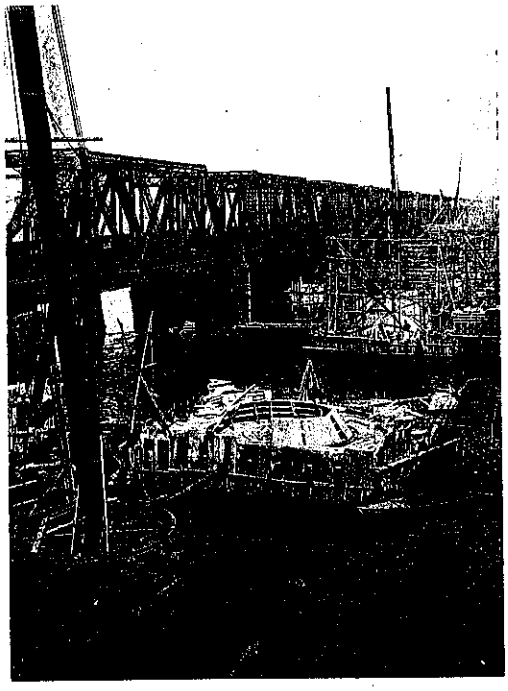
施工者：　飛島組請負

監督者：　京濱電力株式會社技師
　　篠　宮　彌　吉

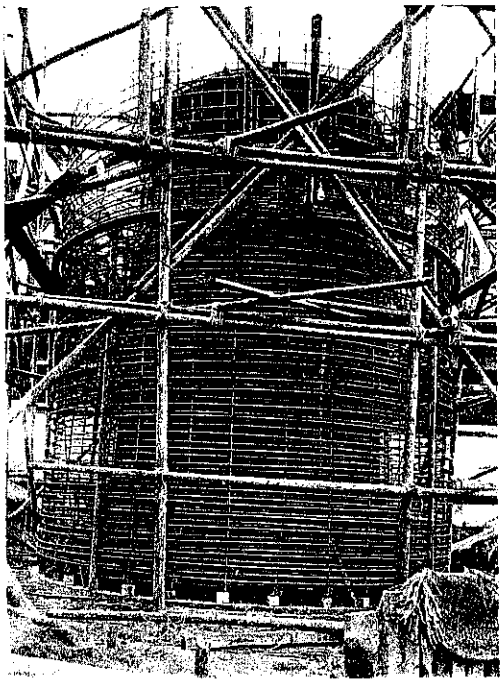
竣　工：　昭和 12 年 12 月

工事中の上淀川橋梁 (時報欄參照)

橋脚井筒カーブシュウの据付



橋脚井筒の鉄筋及注水管



會員転居転勤の場合の注意

會員の御転居又は御転勤の場合は即時明細に御通知下され度し。

會費納付に付き注意

會費	會員種格	會費年額	第1期分 (1月~6月)	第2期分 (7月~12月)
	會員	金12円	金6円	金6円
	准員	金9円	金4.50円	金4.50円
	学生員	金6円	金3円	金3円

新入會者は月割計算とす。

納期 第1期分：3月　第2期分：9月

納付方法 集金郵便を差向けます（旅行等にて御不在の場合も拂込に支障なき様御配慮下さい）。

振替郵便御利用の場合は振替口座東京 16828 番へ願ひます。

朝鮮滿洲の一部等振替貯金を取扱はざる地に居住せらるゝ會員は納期の翌月末迄爲替その他の方法に依り御送金相成たし。

會費一時納付の御豫定の場合は豫め御通知下されたし。

未納の場合 集金郵便に對し故なく支拂を拒絶し又はその他の方法により御送金なき場合は會費滯納者として遺憾ながら定款第2章第14條第1項に依り會誌の配布を停止せられます。

會誌未着の場合の注意

會誌は毎月1日に發行し漏なく配布致しますから，未着の場合には一応本會に御照會下さい。
發行後數ケ月經過しての照會は時に殘部皆無となり配布不可能の場合があります。

既刊會誌殘部內譯

(* は殘部有るものを示す)

巻＼號	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	金額(1部)(円)
5	*	*	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1.00
6	—	—	—	—	—	*	—	—	—	—	—	—	1.00
7	—	*	*	*	—	—	—	—	—	—	—	—	1.50
8	*	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.00
9	*	*	*	—	*	*	—	—	—	—	—	—	3.00
10	—	*	*	*	*	*	—	—	—	—	—	—	2.00
11	—	*	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.00
12	—	*	*	—	*	*	—	—	—	—	—	—	2.00
13	—	*	*	—	—	*	—	—	—	—	—	—	2.00
14	*	*	*	*	*	*	—	—	—	—	—	—	2.00
15	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
16	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
17	*	*	*	*	*	*	*	*	—	—	*	*	1.00
18	—	—	—	*	*	*	*	*	*	*	*	—	1.00
19	*	*	*	—	*	*	*	*	*	*	—	*	1.00
20	*	*	*	*	—	—	—	*	—	—	*	—	1.00
21	—	—	—	*	*	—		—	*	—	*	*	1.00
22	*	*	*	*	*	*		*	*	*	*	*	1.00
23	—	*	—	*	—	—	—	*	*	*	*	*	1.00
24	—	*	*										1.00

第 20 巻第 12 號（創立 20 周年記念號）…… 1.50
第 21 巻第 7 號（會誌索引付）…… 1.30
震害調査報告書(1,2,3)…… 18.00
応用力学聯合大會講演集…… 1.00
鉄筋コンクリート標準示方書
同　上　解　説 …… 1.00
土木工学論文抄録…… 3.50
土木学會誌索引(第 1 巻第 1 號—第 20 巻第 12 號)…… 0.50
昭和 9 年關西地方風水害調査報告 …… 1.80
土木工学用語集 …… 2.50 (送料別)

上記殘部會誌御希望の場合は所要金額を振替口座東京 16828 番に拂込用紙通信欄にその旨記入請求せられたし。

廣告料

普通廣告	1回 1頁	35円	1回半頁	20円
指定廣告	裏表紙3面對向及廣告初頁		1回1頁	40円
	裏表紙3面		1回1頁	70円
	色アート		1回1頁	60円

○指定廣告は凡て1箇年継続申込のものに限り取扱ふものとす

○會員自身の廣告に對しては總て上記料金の割引とす

○同一廣告の連続掲載申込に對しては 1 年 4 回以上 1 割引とす

○廣告に寫眞版又は木版等を挿入する場合は之に要する實費を別に申受くるものとす

正誤及訂正表

細菌濾過の阻止率

（土木学會誌第 24 卷第 2 號所載）

頁	行	誤	正
128	22	$N=I_0\lambda e^{-\lambda_0 z}$	$N=I_0\lambda_0 e^{-\lambda_0 z}$
129	8	然れば	然れば近似的には
131	11	滅菌水	滅菌生理的食鹽水
132	2	濾過滅菌後分注	別に濾過分注後滅菌
〃	5	恒温水浴	45°C の恒温水浴
〃	〃	に注ぎ，之に前記	に保持せる後，前記
〃	6	注いでよく混和し	注いだるペトリー氏皿に注加し，平等に混和し
133	脚註	HATTORI, H 1917, Micro····	HATTORI, H., 1917, Mikro····
137	表-6 (6)	S_0 mu/cm^3	S mu/cm^3
〃	表-7 (11)	$S'=I_0\lambda_0 y\left(1+\frac{\delta}{2}\right)$	$S_0'=I_0\lambda_0 y\left(1+\frac{\delta}{2}\right)$
〃	3	$S_0'=I_0\lambda_0 y$	$S_0'=I_0\lambda_0 y\left(1+\frac{\delta}{2}\right)$
139	図-11 説明	測定値卽ち曲線は	測定値，曲線は
〃	図-11～14		點線末端の○は⊙に直す
140	表-10 (6～8)	10′	10°
〃	9	表-11, 12	表-11

DOBOKU-GAKKAI-SI.

(JOURNAL OF THE CIVIL ENGINEERING SOCIETY)

VOL. XXIV. NO. 4, APRIL. 1938.

CONTENTS.

Page

Proceedings of the Society. 33

Papers.

On a Special Method of the Construction of Subway proposed by Prof. R. Ono in the Ōsaka Underground Railway Works

By Saburō Mitui, C.E., Member 323

On the Elastic Failure of Warren Type Framed Struts.

By Masaru Yasumi, C.E., Member 333

Discussions. 357

Notes on Matters of Interest. 359

Abstracts of Selected Articles. 387

Current Notes. 423

Our Members Say. 427

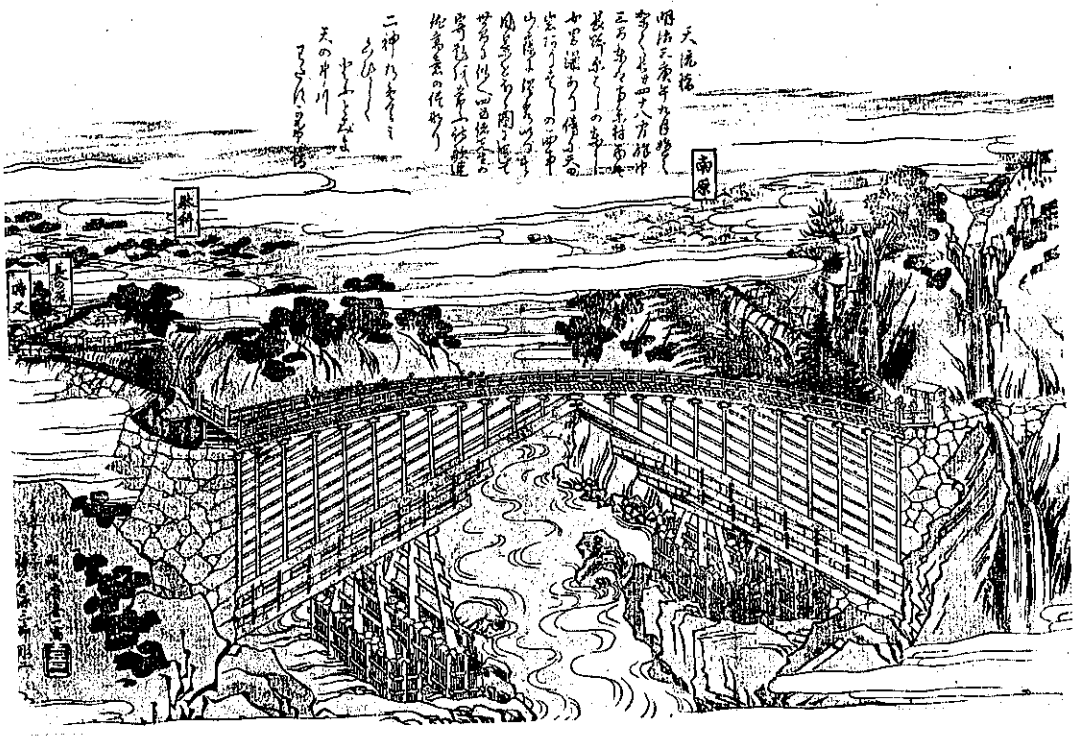
Patent News. 433

New Publications. 435

OFFICE

No. 6, 3-TYŌME, MARUNOUTI, KŌZIMATI-KU, TŌKYŌ, JAPAN.

天　龍　橋



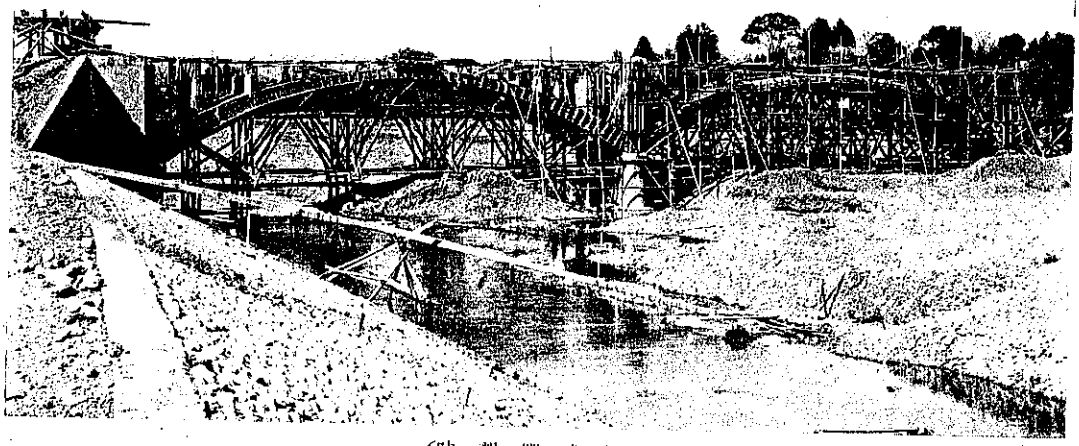
之は明治初年天龍川中流部に架せられた天龍橋の図であつて，當時同川上下を通じて，最初に架設されたものであつたといふ。惜しいことに架橋後數年にして流失し，現在は橋脚の爲に岩石に穿たれた窩が，僅かにその名殘を留めて居るに過ぎない。當時を記憶する老人も極めて尠くなつたが，幸ひ版畫の保存せらるゝものが見出されたのでその形狀を偲ぶことができる。この種の資料として興味あるものと思ふ。

架橋地點はこの附近で兩岸の最も迫りたる部分であつて，飯田市より下流 8 km 位の處である。現在これより下流 1 km ばかりの時又に，繋拱橋が架せられて居る。景勝地として喧傳されて居る天龍峽まで約 4 km，また最近竣工せる泰阜發電所は，下流約 20 km の處にある。

圖は上流に向つて描いたものである。

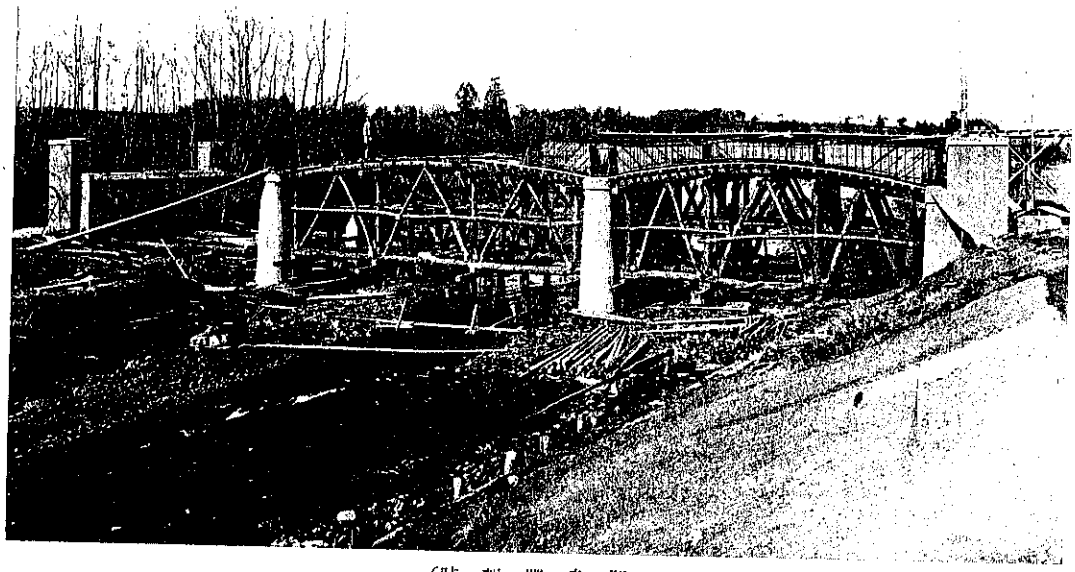
註：　この版畫は北海道帝國大学専門部土木工学科小林幸治君の所藏せられてゐるものである。

工事中の清瀬橋（東京府）



（時報欄参照）

工事中の秋川橋（東京府）



（時報欄参照）